

野口英世は明治32年6月21日に長浜検疫所に着任!!

伝染病研究所に勤務していた野口英世は、明治32年6月16日に横浜海港検疫所（長浜検疫所）に転勤の辞令を受け、同年6月21日に赴任・・・赴任の日に野口英世が恩師小林 栄に宛てた手紙から

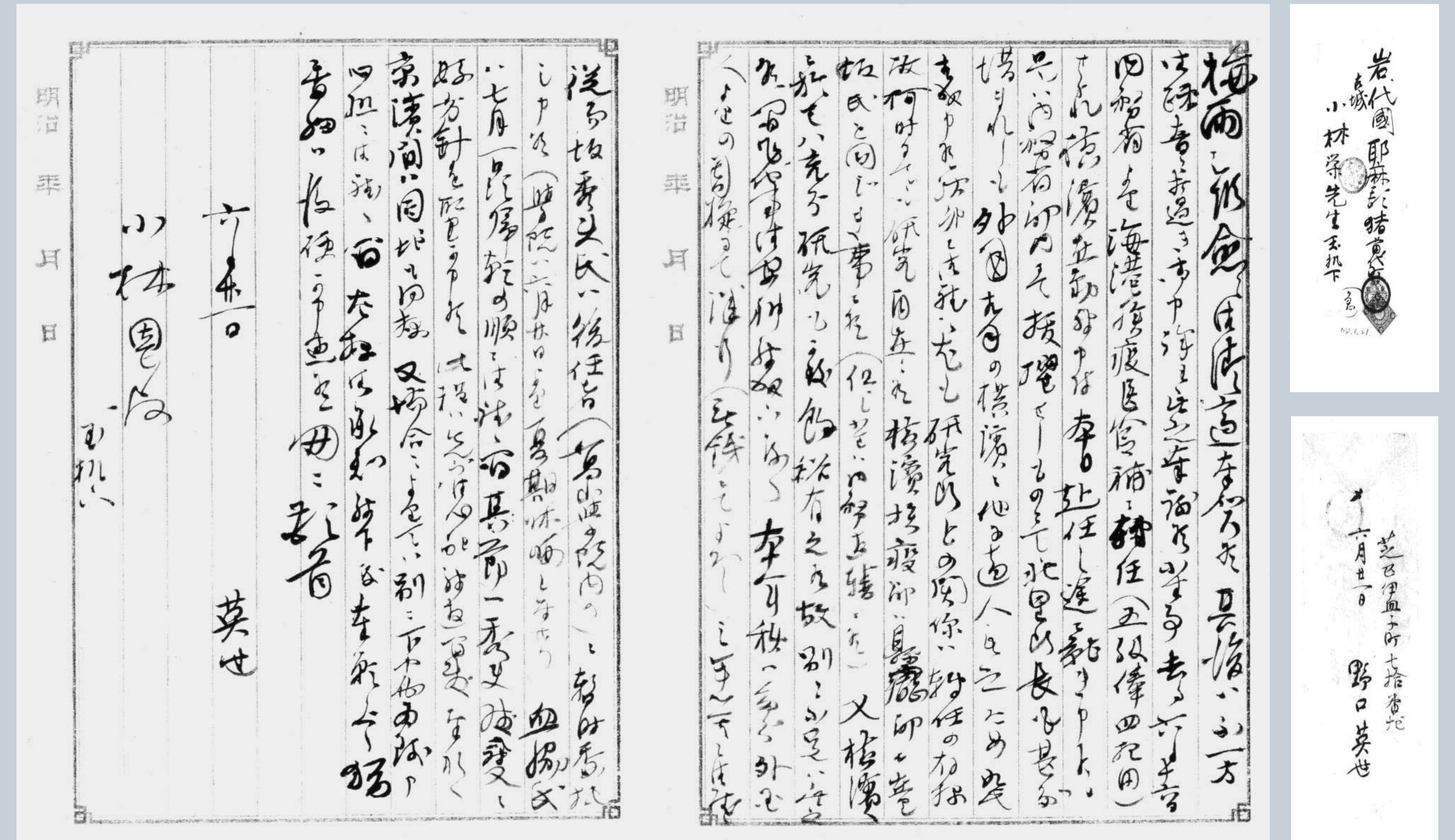
横浜海港検疫所(長浜検疫所)の開設日、所長・検疫官・検疫医官・検疫官補・検疫医官補・調剤手・書記の職制、所長・検疫官・検疫医官の人事は当時の官報に掲載され、明確になっている。

しかし、検疫官補・検疫医官補・調剤手・書記については官報に掲載が無い。長浜検疫所に赴任した野口英世は検疫医官補であったため、任用日や赴任日を明確に裏付ける史料が見つかっていなかった。

長年この裏付け史料を追い求めていた中村澄夫氏(野口英世よこはま顕彰会副理事長)によって2006年に発見された右の手紙(野口英世が恩師である小林 栄に検疫医官補に任用と赴任を報告)によって、明治32年6月16日に辞令を受け、6月21日に長浜検疫所に着任したことが明らかになった。

(中村澄夫:野口英世の横浜海港検疫所赴任の時期を特定—“ペスト騒動”の前日だった— 日本医史学雑誌 2006; 52(3): 465-467)

また、これを補強する2件の史料が中村氏によって発見されている。
(中村澄夫:野口英世の横浜海港検疫所赴任の時期にについて 第112回日本医史学会総会 2011;一般演題 6: 129)



横浜海港検疫所(長浜検疫所)に赴任の日に野口英世が恩師小林栄に宛てた手紙「野口英世記念館」提供

明治三十二年六月二十一日 (手紙 野口→栄)

梅雨の候、愈々御清邁奉候。其後ハ不一方御疎音ニ打過ぎ御申訳も無之奉謝候。小生事、去る六月十六日、内務省より海港検疫医官補ニ転任(五級俸四拾圓)せられ、横浜在勤被申付、本日赴任の途に就き申候。是ハ内務省部内にて抜擢せしものにて、北里所長も甚だ惜まれしも、外国相手の横浜ニ、他に適人無之ため、如此相成申候次第ニ御座候。尤も研究所との関係ハ、転任の有様故、何時にても研究自在ニ候。横浜検疫部ハ、県庁部に在り、坂氏と同じき席ニ候。(但し小生ハ内務直轄ニ候)又、横浜ニ於てハ、充分研究も可致余裕有之候故、別ニ不足ハ無之候間、乍他事、御安神被成下度候。本年秋ハ、多分外国人よりの周旋にて洋行(無銭ニてよろし)の手筈ニ御座候。従て坂秀夫氏ハ後任者(高山学院内)に暫時委託し申候。(学院ハ六月二十日より夏期休暇となせり)血脇氏ハ、七月一日頃、帰朝の順ニ御座候間、其節ハ秀夫殿へ対又々、好方針を取り可申候。此程ハ先づ御心配被遊間敷奉祈候。京浜間ハ同地も同様、又場合ニよてハ、別ニ下宿為致申心組に御座候間、左様御承知被下度奉願上候。猶委細ハ後便可申述候。

六月二十一日 勿々頓首 英世

小林恩師 玉机下

(封筒) 岩代国耶麻郡猪苗代町古城 小林栄先生机下 (急)

(裏) 芝区伊皿子町七拾番地 野口英世 六月二十一日

上記手紙の書下文

出展:「野口英世書簡集Ⅳ」平成18年5月21日発行 野口英世記念館



NPO法人野口英世よこはま顕彰会